



紙は  
神さまである。

## 海堂尊

のっけから結論を言ってしまうえば、「紙は神さまである」ということだ。

生まれてこのかた、紙塗れの人生だ。書いたものも種々雑多、幼稚園のお絵かき帳に始まり小学校の授業のノート、中学の答案用紙、高校では出しそびれたラブレター、大学時代に数枚で挫折した小説の冒頭原稿用紙等々。医師になってからはカルテの山だ。そこには患者さんの人生の一面をリアルに書き込んだが、内容は結構無味乾燥だった。

このように私の人生のあらゆる局面で、必ず紙が関わってきた。

作家になってからは、執筆はワープロだが画面は疑似の紙に感じている。書き

上げると必ずプリントするから、感覚では紙と一体化しているのだろう。

校正するようになって紙の印象はまた変わった。紙になると文章の粗が見えてくる。直す。プリントする。別の粗が見える。また直す。無間地獄だ。

こうした粗はなぜかパソコン画面では見えない。たぶん紙の神さまが「正気になれ」とつきつけてくるものなのだ。

私は本が大好きだが、その本も紙の積み重ねでできている。

私は今、「ポーラースター」シリーズでキューバ革命の英雄の物語を書いているが、そんな難物となんとか格闘できるのも、過去の膨大な書籍があるからだ。

参考図書が千七百冊を超えて大変だと思いつつも、それらの書物がなかったらと思うとぞっとする。

本が一冊あるだけで部屋が豊かになる気がする。それは一冊の本の中に小宇宙が広がっているからだだろう。

人生を賭して追求めた真実が、一枚の紙に記される。それはその人が心血を注いだ時間の結晶だ。

紙がなければ、そうした想いを残すこ

とも叶わない。言葉や思想は紙と共に伝播してきたわけで、紙に対する姿勢でその人の生き方も見えてくる。

そんな紙の叙事詩の末席に自分の本があることが誇らしい。

本を開けば、たちまち執筆当時の空気がよみがえる。紙片の中に私の歴史も、同時に保存されているわけだ。

ところが今の日本には紙に記したものを軽視する風潮がある。官僚が公文書を捨てたと恥じずに言い、それを検察が罪に問わないことなど、その最たるものだ。それは「紙」への侮蔑であり、そんな集団はいずれ手ひどいしっぺ返しを受けるだろう。うまくやりおおせたと思っても紙の神さまはその様をじっとご覧になっておられるのである。

あな恐ろしや。

そんな一枚の「紙」さまを畏れつつ、私は今日も執筆するのであった。



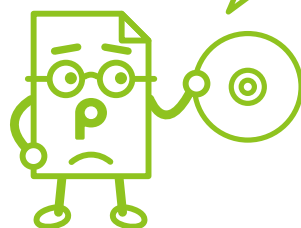
かいどう・たける ● 作家・医学博士。千葉県生まれ。千葉大学医学部卒業、同大学大学院修了。2005年、第4回このミステリーがすごい!大賞を受賞、翌年「チーム・バチスタの栄光」でデビューし、一躍人気作家に。他に「ジェネラル・ルージュの凱旋」「ブラックペアン1988」「螺鈿迷宮」「極北ラブソング」「ケバラ覚醒」「ケバラ漂流」「フィデル誕生」「氷獄」など著書多数。

インスティテュート・セルバンテス東京 フェデリコ・ガルシア・ロルカ図書館にて

### ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

#### 古紙リサイクルは、デリケート。

CDやビニールなどが混ざるだけで、うまくいかなくなるリサイクル。古紙の質を上げて、良い再生紙をつくるためには、これらのリサイクルをジャマしてしまう物きんきひん(禁忌品)をきちんと取り除くことが大切なんです。レシートや写真などのように、紙製品の中にも、混ざるとリサイクルのジャマになる物があるので、ご注意を。



紙のリサイクルをジャマする物(禁忌品)の一例

- ◎ナイロン袋 ◎CD
- ◎写真 ◎カーボン紙
- ◎レシート ◎圧着はがき
- ◎フィルム ◎クリップ
- ◎匂いのついた紙 等



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>

今回は12月5日号、中野京子さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

Photo:Shiro Miyake